



学校だより

ゆめは大きく

尾張旭市西の野町5丁目1番地 <https://www.owariasahi.ed.jp/asahi-e/>

尾張旭市立
旭小学校
第5号
令和8年
9月1日

TEL 0561-53-2035

誰かのための「一歩」が、自分を輝かせる

夏休みが明け、学校に子どもたちの元気な歌声と笑顔が戻ってきました。保護者や地域の皆様には、今学期も本校の教育活動への変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、いよいよ実りの2学期がスタートします。今学期、子どもたちに大切にしてほしいテーマは「周りの役に立てる自分になろう」ということです。

私たちの心には、「三つの幸せ」があるとされています。

1. 人から何かをしてもらう「**もらう幸せ**」(感謝の心)
2. 自分で決めて何かができるようになる「**できる幸せ**」(自信)
3. 自分の力で誰かを喜ばせる「**あげる幸せ**」(貢献の心)

この中で、最も自分を大きく成長させてくれるのが、3つ目の「あげる幸せ」です。

中国の古い言葉に、「前人樹を植えて、後人涼を得る」ということわざがあります。「先人が植えてくれた木のおかげで、後に来た人々が涼しい木陰で休むことができる」という意味です。

学校生活もこれと同じです。朝の校門で、泣いている1年生に高学年の子が「一緒に行こう」とそっと寄り添って歩き出す姿を見かけます。これもまた、先輩たちが残してくれた「優しさ」という木陰に、次の世代が守られている美しい姿です。

『一人はみんなのために、みんなは一人のために』という言葉の通り、私たちは「自分のため」よりも、「誰かのため」と思ったときの方が、不思議と大きなパワーが湧き上がってくるものです。「手伝おうか?」と優しく声をかけること、次に使う人が気持ちよく使えるように、靴や椅子、トイレのスリッパをそろえること。このような小さな心遣いこそが、周囲を照らし、巡り巡って自分自身の心を一番温かく耕してくれます。

2学期には、運動会をはじめ、仲間と「**共創(共に創り上げる)**」する行事がたくさん待っています。他者との比較や競争に一喜一憂するのではなく、いかに仲間を支え、お互いに「あげる幸せ」を届け合えるか。子どもたちが自らの意志で一歩を踏み出し、周りの役に立つ喜びを知ることで、一回りも二回りもたくましく「自走」していく姿を楽しみにしています。

2学期は、お子さんが家庭や学校という集団の中で「自分の役割」を見つけ、誰かのために行動する絶好の機会です。おうちでも、お子さんが家族のために小さなお手伝いをしてくれたときには、ぜひ「ありがとう、助かったよ」と言葉で伝えてあげてください。その一言が、子どもの自己肯定感を育み、次の主体的は行動への大きな原動力となります。

